

28. Skull Scan —^{99m}Tc-EHDP Brain Scan— の

有効性

○小林 真 前田 敏男
伊藤 和夫 利波 紀久
久田 欣一

(金大・核医学)

最近骨スキャン用剤のテクネシウムリン酸化合物が脳硬塞部位に^{99m}Tc-pertechnetate に比し著明に集積するため脳硬塞と脳腫瘍の鑑別に有用であるとの報告がなされているが、我々は脳血管障害の疑われる患者 23 例に 1—7 日間の試行間隔を置いて通算 29 回^{99m}Tc-pertechnetate による脳スキャン (以下 Brain scan) に続いて^{99m}Tc-diphosphonate により脳スキャン (以下 Skull scan) を施行した。方法は^{99m}Tc-pertechnetate 及び^{99m}Tc-diphosphonate 各 10—15 mCi 静注後 2—4 時間後に前後左右 4 方向よりシンチカメラにて撮像した。判定は Brain scan, Skull scan について異常 RI 部位と正常大脳半球部の濃度差を肉眼的に 5 段階に分類し、当教室員 5 名全員一致をもってなされた。結果は以下の通りであった。濃度差が Skull>Brain であったのは 21 例 (Brain, Skull, Scan いずれかで陽性であった症例) 中 14 例 (67%) Skull=Brain, 7 例 (33%), Skull>Brain の症例は認めなかった。陽性率は Brain Scan では 29 例中 18 例 (63%), Skull scan では 29 例中 21 例 (72%) であった。

以上脳血管障害に対して Brain Scan, Skull Scan を同時期に施行し両者の検出率と濃度について検討し、Skull scan が脳血管障害検出に Brain scan よりまさっていた事を認めた。更に脳血管障害とその他の疾患の鑑別に役立つ可能性を示した。

29. 子宮頸癌のレノグラム

牧野 宣一 大島 統男
田中 良明 小幡 康範
斉藤 宏
(名大・放)

当科では、子宮頸癌の治療にあたって、照射後に renogram を施行し、照射の効果判定、並びに患者の経過観察に役立てている。Follow up の期間が短かいので充分なことはいえないが、ある程度の結論を得たので報告する。Renogram を施行した症例は全部で 91 例で、うち分けは I 期 16 例、II 期 31 例、III 期 32 例、IV 期 12 例である。III、IV 期と病期が進むにつれて、renogram は正常型は減少し、obstructive 型、non functional 型といった異常型が増加し、かつ死亡率も高くなる。これを一時治ゆの得られた 85 例についてのみ検討すると、特に III 期、IV 期において renogram の異常型を示すものが多くなり、かつ再発率が高くなる。又、左右別に検討すると、III 期において右側の renogram 異常を示すものが多い。

Renogram の型を照射による影響により、3 群に分類した。第 1 群は、照射前に正常型を示すもの 55 例で、このうち 42 例が照射後も正常型を示し病気の再発も認めない。第 2 群は照射により renogram が改善を示した群である。即ち照射前に異常型を示した 12 例は、照射後 6 例が正常型となっている。第 3 群は照射により renogram が更に悪化した群であり、照射前異常型を示した 12 例中、照射後更に 5 例が悪化した。

以上の様に renogram は子宮頸癌の放射線治療において、その経過観察に有効な検査法である。

30. 脾シンチグラム 380 例の検討

加藤 敏光 仙田 宏平
今枝 孟義
(岐大・放)

過去 8 年間に施行した脾シンチ 379 例について若干の検討を行ったので報告する。